

第1回 市立高等学校等改革検討委員会 議事録

1 日 時

令和元年（2019年）7月31日（水）午後3時00分～午後5時00分

2 場 所

熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室

3 委員（50音順）

出席委員：荒瀬委員、川上委員、高智穂委員、田中委員、苫野委員、永村委員、野副委員、福西委員、
矢野委員、山川委員、吉山委員

欠席委員：池田委員、坂本委員

4 配布資料

資料1 会次第 等

資料2 改革検討スケジュール

資料3 事務局説明資料

資料4 事前意見集

諮問書

5 次第

開会

（1）委嘱状交付

（2）教育長挨拶

（3）委員紹介

（4）委員長選出

（5）諮問

（6）事務局説明

（7）意見交換

①熊本市立の高等学校及び専門学校において、どのような人材育成が求められているか

②変化の大きい社会において身に付けるべき資質・能力はどのようなものか

（8）閉会

6 議事録 (要旨)

<p>〔開会〕 (事務局)</p>	<p>定刻となったので、これより第1回 市立高等学校等改革検討委員会を開会する。委員長選出までの間は、事務局の方で進行する。</p>
<p>〔委嘱状交付〕 (事務局)</p>	<p>委員の皆様へ委嘱状を交付する。本来ならお一人お一人にお渡しすべきところであるが、すでに皆様の机前にお配りしているので、これをもって委嘱状の交付に代えさせていただきます。</p>
<p>〔挨拶〕</p>	<p>それでは、熊本市教育委員会・遠藤教育長がご挨拶を申し上げます。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>皆様こんにちは。熊本市教育長の遠藤と申します。 本日は第1回目の市立高等学校等改革検討委員会にお集まりいただきありがとうございます。また、委員の皆様方におかれましては、大変ご多忙中なところ、委員へのご就任について、ご快諾をいただき本当にありがとうございます。 第1回の検討委員会の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。 この改革検討委員会は、熊本市立の必由館高校、千原台高校、総合ビジネス専門学校の、3校の抜本的な見直しについてご意見をいただく会となっております。この会は条例に基づく教育委員会の附属機関として設置しております。 改革が必要になった背景としましては、皆様ご承知の通り、熊本県内でも少子高齢化が進んでおり、また、人生100年時代と言われますが、学校を出てから活躍する時間、人生の時間が長くなっております。また、グローバル化、最近の情報技術の急激な革新などによって、これまでに比べて、学校を出た後どのように生きていくか、常に知識をアップデートしながら新しい状況に対応していくことが、これまで以上に重要になっていきます。人生がこれまでよりも長く、幅広く、そして変化のスピードが速くなっています。こういう時代において、高校という時期をどのように過ごすべきか、専門学校がどのようにあるべきか、ということの皆様にご検討いただきたいという趣旨であります。 また、熊本市の実態に目を向けますと、私は昭和の学校と申し上げているわけですが、まだまだ詰込み型の一斉授業や、集団に同調することだけが目的のような学校行事、更には、言うことを聞かせるだけの生徒指導など、残念ながらそういった現状があると思っております。 また、進路においても、熊本の高校入試というのは偏差値による輪切りが著しく、他県に比べても、「この偏差値ならこの高校」「この学校で何番ならこの高校」といったように輪切りの輪が細かすぎるといった状況になっております。本当に自分がしたいことや、将来自分が何をしたいかということで高校が選ばれているわけではなく、「この偏差値ならこの高校に行けます」といったように、偏差値で選ばれている状況が残念ながらあると考えております。この状況をなんとかしないといけないと考えております。 一方で全国に目を向けてみますと、今、文部科学省でも普通科改革ということで、「普通」とは何なのか、中学校を出た生徒の大半が行く学校が普通科だが、みんな普通でよいのかということが問われる中で、国全体でも高校改革の動きが出ています。 更には、熊本市立の高校は、これは私たちの努力不足もありますが、だんだんと入試倍率の低下が見られ、千原台高校では定員割れを起こしたという状況でありますから、現状を考えただけでも、5年後、10年後は熊本市立の高校はこのままでよいのか、あるいは専門学校はこのままでよいのかということが問われる状況にあります。 今回の改革は、こうした現状をなんとか変えていきたい、明るい未来を作っていきたいということで、子どもたちが「行きたい」と思えるような学校、保護者が「この学校に行かせたい」と思えるような学校、子どもたちが笑顔になれるような学校づくりをしていきたい、詰込み型ではなく生徒が主体となって学びに向かうような活気のある学校、あるいは自分の将来をデザインしながら、そのために必要な学びを自らの力で取り組み</p>

	<p>るような学校ですね、例えば、一番大事なのは、社会に出てから、学校を卒業してから必要な力、自分で学び続け、自分で新しく成長し続けるというような力がつけられるような学校、そんな学校づくりをしたいということで、この検討委員会を教育委員会として設置させていただいたところです。</p> <p>この委員会で皆様にご議論していただきたいのは大きく2つ。1つは、熊本の人づくりの方向性ということです。今申し上げたように、人生がこれまでよりも長く、広く、そして変化が速く激しくなっている時代においてどんな教育が必要なのか。そしてもう1つは、そのためにどのような学校、教育機関が必要か、現状の3校をどのように改革していったらよいのか、ということについてです。このように大きなテーマで議論していただきたいと思っております。</p> <p>ですので、委員の選定にあたりましては、教育の専門の先生だけでなく、保護者の代表の方、中学校の代表の方、それから、本日はご欠席ですが経済界代表の方、また、熊本のまちづくりに詳しい方、そして熊本出身で全国や海外で活躍される方、一般公募の方、当事者として在校生の代表の方、こうした幅広い立場の方にお集まりいただいたということでございます。</p> <p>ですから、この会は細かいことを決めるというよりは、皆様の意見を自由に出していただいて、私たちとしても皆様からアイデアをいただくということを目的にしたものです。ご遠慮なさらずに、ご自由に思ったことを、極論でも結構ですので、偏った意見でも結構です。今は偏っていても、10年後には真ん中になっているかもしれません。ですから、ぜひご遠慮なく、何でも言っていて、「あの時、あなたがこう言ったからあなたの責任ですよ」ということは言いませんので、皆様の意見を受けて具体的な改革を作り上げて実施していくのは我々教育委員会、そして熊本市ですから、そのためのアイデアをたくさんいただきたいという趣旨でこの会を開催させていただきます。それぞれのお立場やご経験から、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>また、在校生の3名の代表の方にも、緊張する状況になっているかもしれませんが、周りの優しい大人がサポートしてくれますから、ぜひご遠慮なく、何でも言っていてほしい。私たちも、学校を一番よく知っている生徒の皆さんの意見をぜひ聴きたいと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。</p> <p>この検討委員会は4回を予定しております。年度末までの期間になりますが、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>[委員紹介] (事務局) 続いて、委員の皆様の紹介を行う。お配りしている資料1にある委員名簿にてご紹介に代えさせていただきます。</p> <p>なお、劇団きらら代表・池田美樹(いけだ みき)委員、熊本商工会議所専務理事・坂本浩(さかもと ひろし)委員については、本日も欠席である。</p> <p>[会議の成立] (事務局) 本日は11名の委員が出席しており、委員定数13名の半数以上が出席しているため、「市立高等学校等改革検討委員会運営要綱」第6条の規定により、本日の会議は成立していることをご報告する。</p> <p>また、同要綱第7条の規定に基づき、本委員会は公開とさせていただきます。</p> <p>[委員長選出] (事務局) 次に、本検討委員会の委員長の選出に移らせていただく。委員の皆様からご推薦などはないか。</p> <p>吉山委員 (事務局) 熊本大学の苫野准教授を推薦する。</p> <p>苫野委員に委員長をお願いすることよろしいか。</p>
--	--

<p>〔諮問〕 〔事務局〕</p> <p>〔事務局〕</p>	<p>(承認)</p> <p>では苫野委員は、中央の委員長席へご移動をお願いします。</p> <p>遠藤教育長から当委員会への諮問書を、委員長にお渡し申し上げる。</p> <p>《遠藤教育長が諮問書の要旨を読み、苫野委員長へ渡す》</p> <p>ここからは進行を委員長をお願いします。はじめに、苫野委員長からお一言頂戴したい。</p>
<p>苫野委員長</p>	<p>皆さんどうぞよろしくお願いいいたします。苫野と申します。熊本大学教育学部の教員をしております。専門は哲学と教育学。哲学をベースにこれからの教育を構想、実践していくというようなことをやっております。私自身は、どちらかというと自由に意見を言う方が得意で、議事進行は苦手ですが、何とか果たしたいと思います。個人的に今、心がけたいと思っているのは、遠藤教育長から、自由に大胆な提言をしてほしいという風におっしゃっていただきましたので、是非大船に乗ったつもりでやらせていただきたいとは思っていますけれども、我々ほとんどが市立高校及びビジネス専門学校の現場をあまり知らないと思います。ですので、決して上の方から偉そうには言いたくないなど、現場の声をしっかり聴きたいと思っておりますので、高校生の皆さんに大いに活躍してほしいと思っています。しかし、それはそれとして一方で、現場だけでは出てこないアイデアというのもありますので、大胆にビジョンをしっかりと掲げていきたい。ビジョンとできればロードマップまで掲げるようなことができればいいなと思っています。こういった会はよく、教育の世界はどうしてもきれいな言葉で最後まとめて語ってしまう、中身があまりよく見えないということがよくありますので、そうはならないように、ちゃんと実質のたっぷり詰まった言葉を紡いでいきたいと思っています。あと、できることなら、非常に前向きな会だと思っておりますので、「それは理想かもしれないけど、現実には無理」ということはできるだけ言わないようにしたいと思います。できることならば、それがいいことならば、どういう条件を整えれば実現するだろうか、というような、非常に前向きで建設的で夢のある時間にできたらなと個人的には思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
<p>〔議事〕 苫野委員長</p>	<p>では議事に移る。</p> <p>まず、当委員会の今後の進め方についての確認を行う。お手元の資料2をご覧ください。</p> <p>当委員会における議論は、今回を入れて全4回を行い、令和2年3月に答申を取りまとめる予定である。</p> <p>各回の論点については、記載のとおりである。</p> <p>今回の第1回目は、「熊本市立の高等学校及び専門学校において、どのような人材育成が求められているか」「変化の大きい社会において身に付けるべき資質・能力はどのようなものか」の2点について皆様のご意見をお伺いしたい。</p> <p>意見交換に入る前に、事務局の方から、熊本市立高校・専門学校の現状と課題などについて、説明をお願いします。</p>
<p>〔事務局説明〕</p>	<p>《事務局説明》(資料3に基づく説明)</p>

<p>[意見交換] 苦野委員長</p>	<p>それでは今回の論点である、「熊本市立の高等学校及び専門学校において、どのような人材育成が求められているか」「変化の大きい社会において身に付けるべき資質・能力はどのようなものか」の2点についての意見交換に入る。</p> <p>また、資料4は、事務局の方で、今回の論点に関する各委員の皆様のお考えを事前にお聞きしたものをまとめてある。</p> <p>これを基にして皆さんの方で侃々諤々議論をしていきたいと思うが、皆さん予めお読みいただけていないようなので、せっかくなので、お一人1分ずつくらいで書いていただいた内容を共有してよいだろうか。</p> <p>荒瀬委員はご提出いただけていないので、後でご発言をお願いしたい。まずは池田委員からと思ったが、本日欠席なので、私の方でかいつまんで読ませていただく。</p> <p>《苦野委員長が資料4中池田委員の意見を読み上げ》</p> <p>それでは、川上委員にご発言をお願いします。</p>
<p>川上委員</p>	<p>《川上委員が資料4中自身の意見を読み上げ》</p>
<p>苦野委員長</p>	<p>ありがとうございます。坂本委員も欠席なので、私の方からざっと読ませていただく。</p> <p>《苦野委員長が資料4中坂本委員の意見を読み上げ》</p> <p>それでは高智穂委員からお願いします。</p>
<p>高智穂委員</p>	<p>私は、箇条書きではあるが、自分自身が社会人として何ができるのかを確立してもらうことが大事だと思っていて、それにはこんなことが必要じゃないかということも挙げている。</p>
<p>苦野委員長</p>	<p>ありがとうございます。それでは田中委員をお願いします。</p>
<p>田中委員</p>	<p>《田中委員が資料4中自身の意見を読み上げ》</p>
<p>苦野委員長</p>	<p>ありがとうございます。続いて私だが、このまま読み上げる。</p> <p>《苦野委員長が資料4中自身の意見を読み上げ》</p> <p>それでは永村委員をお願いします。</p>
<p>永村委員</p>	<p>ちょっと自分が書いたものを読んでみても、言葉遣いがきつかったり、夜の時間に書いたためまとまりがなかったりするが、ここで私が勘違いしていたのが、どのような人材育成が求められているかということ、私はメソッドと思っていた。色々書いているが、「どんな子になってほしいかを語るのは寝言」など、とてもきついことを書いていて、自分でもびっくりしているが、この問いに関してもやっとしたところは、1つ2つと理想を掲げて、それにはまるように指導していこうというのではなく、これからは色々な素質とか、色々な違いをもっている人がいて、それぞれが素晴らしいというのが前提にあるので、答えが「全部違って全部いい」という風に、1つに集積しにくくなっていく時代になると思っているので、「こういう風な子に育ってほしい」ということを語る以外の切り口からやっても面白いのではという意図で書いたものである。議論に対して初めからネガティブなことをぶつけているという意図はないので、書き方がまずかった。その中で、一般論としては、そのもやっとしたこと、感じたことをまとまり悪く書い</p>

	<p>ているが、各論としては、色々フリースクールの出身者とか、不登校で色々な統計から漏れている子どもたち、または、熊本市内にも幼稚園と小学校レベルでインターナショナルスクールができていているということを聞いているので、その子たちが高校の年齢に上がった時に受け皿があるのかということと、県外とか東京または海外に、幼少から多言語教育を受けていた優秀な人材が外に出て行ってしまうのではということ。あとは、海外からの労働者が多いので、その家族に付いてきた日本語が第一言語ではないバックグラウンドをもった子どもが増えるのではと思うので、そういう子たちにも居場所があって自己肯定感とか地元の子たちと一緒に育んでいける環境というのがこれからの時代もっと必要なのではと思った。</p> <p>2番目の方も、その延長だが、これは私の経験から、私は高校2年間をちょっと保守的な学校の色がある高校に行って、そこからロンドンにある寮制のインターナショナルスクールに編入して、向こうの農業大学に進学した。その時に、熊本の高校ではあまり個人として尊重されていなかったように感じたが、ロンドンのインターナショナルスクールでは、すごく励まされて、あなたは素晴らしいし、あなたの未来は明るいし、この頑張りはいいと自己肯定感をすごく受けて、無事に途中で挫折してしっぽ巻いて熊本に戻ることなく高校卒業して進学に至った経験があるので、もうちょっと自分の熊本の高校時代を振り返ると、自己肯定感とか、そういう「あなたならできる」っていうことを確信を持たせてくれる先生との出会いとか、そういうことに重きを置いた教育があっただけでもないのでは。それがあると、私みたいなちょっと頭がいいわけでもない、器用なわけでもないのに、外国の高校を卒業して大学進学してと、今思えば随分なことをやったなということも出来てしまうので、それがあれば変化の大きな社会でも十分渡っていく強みになるのではと思います。</p>
<p>苫野委員長</p>	<p>ありがとうございます。それでは野副委員お願いします。</p>
<p>野副委員</p>	<p>《野副委員が資料4中自身の意見を読み上げ》</p>
<p>苫野委員長</p>	<p>ありがとうございます。それでは福西委員お願いします。</p>
<p>福西委員</p>	<p>《福西委員が資料4中自身の意見を読み上げ》</p> <p>永村委員からも話があったが、私も少し変わった高校を出ていて、京都出身なのだが、高校時代は大阪に住んでいた。非常に家庭が経済的に苦しかったので、桃谷高校という府立高校に通っていた。そこは、通信制と単位制が混じったような、毎日行かなくてもいい高校で、働きながらになるのだが、私の印象では生徒の3分の1が私のような家計が苦しかったり、3分の1が朝鮮学校の生徒さんが、朝鮮学校を出ても高校卒業の資格が得られないので、それを大阪府として高校を出してあげようということで、提携していた。3分の1が、桃谷高校というのが、大阪でも割とあまりお金がなく、言い方は悪いが、苦勞している人が多い地域なので、高校を出られずに中学しか出られなかった高齢者の方がすごく多かった。3分の1の方が、中学を出た後50、60になった後に高校でもう一度勉強したいという強い気持ちを持った方だった。ここで私は、自分が悩んできたのは、大人の方や、民族的に違う方等との話の中で、些細な悩みなのかもしれないとか、こういうきっかけがあったら立ち直れるのかもしれないとか、面白いことがたくさんあったので、やはり自分に自信を持ったり、そういう助けてくれる人とか制度というのはどこかにあるんだけど、それになかなかアクセスができないというのはもったいないし、もったいないというか、それがなければ自分はどうなっていたらと思うこともあるので、そういうのも社会の中で自分が自分らしく生きていくための資源にアクセスするための知識みたいなものを資質として持っていればとか、レジリエンスを高めるとか、高校の方で学べれば良いと思う。</p>

苦野委員長	ありがとうございます。それでは矢野委員お願いする。
矢野委員	《矢野委員が資料4中自身の意見を読み上げ》
苦野委員長	ありがとうございます。それでは山川委員お願いする。
山川委員	《山川委員が資料4中自身の意見を読み上げ》
苦野委員長	ありがとうございます。それでは吉山委員お願いする。
吉山委員	《吉山委員が資料4中自身の意見を読み上げ》
苦野委員長	ありがとうございます。それでは荒瀬委員お願いする。
荒瀬委員	<p>私は熊本市のことを知らない。事前に意見をということでお尋ねがあったが、熊本市立高校や専門学校でどのような人材育成が求められているか、というのは正直わからない。私は先ほどご紹介いただいたように、京都市立堀川高等学校というところに25年間いた。教育委員会事務局にもいた。その経験から、変な言い方かもしれないが、市立高校は作らなくてもいいものだと思っている。公立高校を設置する義務は都道府県にあるので、熊本県が作ればよいわけである。では、市立高校があるのはなぜかという、市民のニーズに直接応える高校が必要だからだ。基本的に市民のニーズはどこにあるのかわからないので、1つ目のお問い合わせに答えられなかった。2つ目のところだが、これは私が委員を務めている中教審が、答申で示しているとおりだ。これからの社会がどうなっていくのかわからないけれども、わからない中で何が必要かという、どんな時代であっても生きていくために必要な力があるということで、答申で述べ、次期学習指導要領に反映されているが、これは皆さんがおっしゃった中であつたことと重なる。ただ、私が大事にしていかなければならないと思うのは、とりわけ今後熊本市立の高校・専門学校をどうしていくかという場合に考えなければならないのは、どんな力が必要かということはもちろんだが、どうすればそれらを身に付けられるのかということだ。熊本市が設置している3校というのは事実としてあるわけであるから、その事実の中で、どういう事実をさらに加えていくのか、つまり改善していくのかということを考えていく必要があると思っている。まだ私は具体的事実というのをよくわかっていないので、色々勉強させていただきながら加わらせていただきたい。</p>
苦野委員長	<p>ありがとうございました。荒瀬委員には豊富なご経験を是非シェアしていただいて私も学ばせていただきたいと思う。</p> <p>ここからは是非具体的にどうすればいいのかを意見交換していきたい。一言だけ、私から口火を切らせてもらおうと、とても大事だと思うのは田中委員、永村委員がおっしゃったような、社会的弱者への配慮や多様性の尊重、自己肯定感、こういったことは常に底に敷いておきたいと思う。というのも、人材育成という言い方をすると、どうしても社会的に有為な、社会に役に立つような人間を作るんだという方向にいつてしまがちだからである。ここのケア、自己肯定感、自分の承認、他者の承認に関しては常にベースに、忘れないようにしていきたい。</p> <p>皆さんのおっしゃっていたことは、いくつかの類型に分けられると思ったが、「ケア」のところと「能力」のところなどいくつかあると思うが、まずは自由にブレインストーミングのつもりで、どなたの意見に対しての感想でも疑問でも反論でも構わないので自由にやっていただきたい。</p>

永村委員	<p>最初に資料でわからない言葉があったので質問したい。資料37ページにSociety5.0時代とあるが、これは何のことか。</p>
苦野委員長	<p>私から説明する。これは文科省や政府がしきりに言っていることで、おそらく日本でしか通用しない言葉だが、いわゆるSociety1.0が狩猟採集時代、2.0が農耕時代、3.0が工業化で、4.0が情報化で、5.0がこれからやってくるAIやIoTであらゆる知識が瞬時に手に入り、あらゆる知識が瞬時に繋がり合う時代のこととされている。最近の教育界のバズワードである。</p>
田中委員	<p>先ほど荒瀬委員からお話のあった、熊本市のニーズについてだが、私も熊本市に住んでいるわけではなく、大学院生として熊本市に通学する者としての資格で応募した者である。熊本市のニーズについて自分も少し考えてみたが、現在熊本県内では特別支援学校がどんどん増えている。私自身が大学院で障害心理学を専攻しているので、そういった話はたくさん聞くのだが、知的障害というよりも発達障害をもった子どもがこれまでよりも認知されるようになってきて、県が特別支援学校を増やしているという状況にある。</p> <p>そこで今考えているのは、私は今高校の非常勤講師をしているのだが、受け持っている生徒に勉強が苦手な子が非常に多い。その中には恐らく発達障害をもった子もいるだろうと思う。熊本市在住の子の中には、適応指導教室であったり、それ以外の何らかのサポートを受けてきた子が多い。彼らは支援学校に入ることができない。何故かというところ、支援学校の募集人員が少なく、支援学校に入れる子たちというのは、小さいころからケアを受けてきており、入試を突破できるだけのコミュニケーション能力を持っているからである。私が受け持っている子たちというのは、小さいころからケアをあまり受けることができず、学力がついてこずに、入試で倍率の高くない、自分の志望とは違う学校にいかざるを得ない人が多い。そういった状況から、彼らの多くは、恐らく自分の志望する勉強ができていない気がする。しかも、特別支援学校ではなく、普通の高校であるため、全体的な指導を主として、上から下へという先生の対応や、合理的配慮もなされない場合も多くある。そういった発達障害などの特性のある子にとっては、酷な状況の中で頑張っている子がたくさんいるが、それが彼らにとっていいことなのだろうかという疑問に思いながら日頃教育活動に取り組んでいる。なので、熊本市としてのニーズと考えると、今はそういった自分に最も適した教育の場を与えられていない子たちに対してどうにかしてあげることが必要なのではと思っている。そこで私の思っていることは、「熊本市立高校全部通信課程にしちゃえ作戦」とか、そんなことを考えていて、全日制・定時制・通信制を並列するような感じで、そういった勉強にすごく困難を抱える子たちが、安心して、自分のペースで勉強できるようところで勉強させてあげられたらいいと思うので、まずは今そのようなことを考えている。後でまたいっぱい話すかもしれないが、今日はここまでにする。以上である。ありがとうございます。</p>
苦野委員長	<p>ありがとうございます。いきなりラディカルな大変おもしろいアイデアがでてきた。皆さんご自由におっしゃっていただきたい。</p>
荒瀬委員	<p>こういう検討の場に、生徒さんがいらっしゃって声を出せるのは素晴らしいと思う。校則1つ変えるのに生徒が関われないことが結構多い中で非常に素晴らしいと思う。</p> <p>ただ、素朴な疑問として、どうして3校の校長先生や先生方がこの場にいらっしゃらないのかと思う。いずれまた、それぞれの学校の具体の話聞かせていただけるのかもしれないが、高校改革は色々なところでやっているが、それぞれの学校の当事者である先生というのが生徒にとって一番近い存在であるため、そういった人が入るのが自然</p>

事務局 (岩瀬教育次長)	<p>な感じがするのだが、何か理由はあるのか。</p> <p>ただいまのお尋ねについてであるが、本日3校の校長が私ども事務局の方に座って、本日の議論を聞いている。特に本検討委員会については、生徒の代表ということで選んでいる関係で、特に校長の出席を求めたものではない。ただ、先ほど荒瀬委員がおっしゃったように、学校の教職員であるとか、生徒であるとか、そういった生の声を直接伺いたいというご意見・ご要望があれば今後そういった進め方も併せてご提示できればと思っている。この委員会の中で、そういったこともご議論いただければと思っている。</p>
苫野委員長	<p>ありがとうございます。時間はあまりないのでどんどんご発言いただきたいが、今のニーズの話は大事だと思う。初めに確認しておく必要があると思うので、高校生の皆さんからどんなニーズがあるのか聞かせてもらえたらうれしいが何かあるか。</p>
高智徳委員	<p>ニーズといっても難しいと思う。こんな勉強がしたいなどはあるか。</p>
矢野委員	<p>勉強に関しては、普通科と国際コース・芸術コースのカリキュラムを改めて見るとあまり差異がない。千原台高校ではプログラミングであったり簿記であったり、専門的に特化した、商業高校というのものもあるかもしれないが、それは一般の高校でも国際コースでやっている交換留学など外国に通ずる活動をもっと増やしたり、例えば国際交流会館での国際的なイベントを開催したり、外国人の方を呼んでやるイベントなどを開催して、国際コースの色をより深めていけたら、自分自身も今国際コースに在籍しているので、そういう学習があればいいのかなと思う。</p>
高智徳委員	<p>あまりにも大人の議論ばかりで、2回目以降来たくなくなるのではと心配になり勝手にすいません。</p>
苫野委員長	<p>ありがとうございます。高校生の皆さん、他に言いたいことがあれば、無理はしなくても結構なので、言いたくなったらお願いします。</p>
高智徳委員	<p>高校に行くことは2度とない。自分たちが高校で勉強したことと、川上委員・野副委員・矢野委員が勉強していることは絶対に違うと思うので、その中で、こんなことがあったらいいなとか、大人になると、こんなことやっておけばよかったとか、ただ羨ましいだけかもしれないが、こう色々面白いことが出来たら、熊本にローカルリーダーをと、企業の方々が求めているとアンケートにあったように、熊本に残って熊本が楽しいと思って、熊本で生活をしていきたいと思ってくれる人がたくさん出てきてくれるといいなというのがある。荒瀬委員がおっしゃったように、どうすればその力がつくのかということについて、私が事務局と打ち合わせをしていて話したのが、子どもたちがどうしたいかもすごく大事だが、何かを改革するときにそれをきちんと指導できる指導者を育てることの方が先ではないかと思っている。千原台高校の名前を出して恐縮だが、私がコミュニティFMのパーソナリティをしていて、その取材の一環で熊本市の番組の中で紹介したのだが、先進的な取り組みとしてプロジェクト型学習をやっていて、色々なテーマに分かれて、色々なコースがあるので、観光であったりスポーツであったり、それぞれが調べて、それをどう解決していくのか、熊本市の課題があって、それについて調べて、それをどうすれば良くなっていくかという流れを調査するという、グループに分かれて行っているのだが、なんで調べたのか、どういうことが分かったか、結果どうすればよいか、というのが彼らの言葉ではなかった。それは、子どもたちが悪いわけではなく、先生が悪いわけでもなく、それをどうすればよいかどちらも知らないだけである。だから、そういうままやっていって、いつか形になればいいか、ではちょっと、来年から動きが変わっていくので、この改革も。ちょっと見切り発車過ぎないかなとい</p>

	<p>うこともあるので、それを真似てもいいと思うし、熊本市に寄せ集めてスタートしてもいいので、形を作って、それを指導できる人を作っていかないと変わらないのではないかなと。すごく子どもたちも先生も可哀相だなと思う。やらせなきゃいけない、しなきゃいけないという中で取り組んでいるので、せっかく熊本市立の高校なのに、行政のことについて行政に質問が出来ていなかった。中央区役所に聞けばいいのと思ったことが、全然そこにつながっていない。なぜそこに行かなかったのかと思ったら、先生方に話を聞くと、正直やっつけでしかなかったと思ってしまった。「大変だったですね」、で話は終わったのだが、そこが、どうすればその力がつくのかということを含め、それを教育する方も大事に考えていかないといけないのかなと思う。</p>
<p>苦野委員長</p>	<p>おっしゃるとおり。堀川高校、隠岐島前高校への教員派遣をぜひ教育委員会にはお願いしたい。我々教員養成も抜本改革をしなければ、とも思っている。</p>
<p>永村委員</p>	<p>矢野委員の発言を受けてであるが、時代の流れで私が予感することだが、逆に野副委員と矢野委員に、入試要項で、「普通科」「普通」という言葉にときめくのか。「国際科」の方がわくわくしないか。私はこの時代の流れの中で「普通」を売りにするニーズがガタガタ下がっていくと考えている。国際科と普通科の垣根がなくなって、国際科と言っていることがスタンダードになっていく時代。クラスメートの中にも外国籍の子だったりとか、海外に住んだことがある子が入り混じって、授業の中にも自然に色んな国のカルチャーとか色んな言葉、コミュニケーションを学習する機会が増えていくというのが、これからあってほしい高校の在り方。普通科というのを令和の時代に続けていくというのはどうか、という私の疑問と、高校改革をしていくときにはメスを入れたいという気持ちがある。</p> <p>あと、ローカルリーダーを育てる面で、総合ビジネス専門学校のカリキュラムを見て思ったのが、色んな資格をリーズナブルなお値段で取得して、就職して、出来上がった生徒さんを企業に納品して終わりみたいな、それだけではこれから先の時代は味気ないので、もう少しチャレンジする、自分でクリエイティブにする、ベンチャーの起業の仕方とか、若い起業家を育てるとか、もっともっとガツガツお金儲けをするとか、もっと単刀直入にお金の儲かるビジネスというものについて、あと企画力とかマーケティング能力とかに真正面から取り組むという企画などもあったらもっと楽しく活発になるのかなと思う。地場の企業の方もそうだと思うが、もう就職出来たら安泰という世の中ではないと思うし、定年も引き上げられ、入社してもジェネレーションギャップがすごかったりとか、専門学校でITとかAIとか色々勉強したのに会社に入ったらエクセルも使えない人にエクセルの使い方を教える日々が過ぎていくといった話も聞くので、AIとか次世代の情報とかを鍛え上げられた子が、そのノウハウとか新しいエネルギーをもって起業までしちゃうぞ、っていうフレッシュさをサポートする、送り出すっていうインスティテュートになったら面白いのではないかなと思う。</p>
<p>苦野委員長</p>	<p>全部国際科、通信科、起業家育成、色んなアイデアが出て面白いと思う。それこそN高校は生徒たちが起業もやっている。投資もやっている。従来の枠組みを取っ払って考えていいと思うので、自由にご発言を。</p>
<p>田中委員</p>	<p>大学院生であるが、高智穂委員と永村委員と矢野委員の発言を受けてお話しする。私が行っていた学校は東京都立の高校で初めて総合学科になった高校である。プロジェクト学習の話が出たのでプロジェクト学習に関することとお話すると、必修科目で課題研究というのがあった。当時は自分でテーマを決めてそのテーマに沿って担当の先生について研究、学びを進めていくという内容で、私は焼き畑農業について調べた。実際に山形県の町に資料をお願いしたら、すばらしい町役場の方が写真付きの資料を送ってく</p>

	<p>ださって、それをもとに森林ジャーナリストの方にお手紙を送ったらとても丁寧な返事を下さって、未だにメル友だが、そういった方の力も得ながら課題研究のレポートをまとめ作成した。そういったことを踏まえて思うと、私も今高校で教員をしていて、たまに課題研究めいたものをやるが、学校の運営上の問題もあって、生徒が自分で決めたテーマに沿って学びを進めることがなかなか難しい場合もある。先生が「この中から選びなさい、このチームでこのテーマについてやります」ということも非常に多くて、そうすると生徒が自発的にこういう問題意識でこういうことを調べたいということがやりづらいという現状がある。私と同じゼミにいた子は、「ゼクシィ」を5冊ぐらい買って、結婚式の相場をとりまとめてレポートにまとめた。それに対して先生は「そのテーマはどうか」ということは絶対言わず、その子は毎回ゼミではゼクシィを読んで、まとめている。そういう自分の焦点を絞った自由な学びができるのは大事だと思う。</p> <p>2つ目だが、今日にいたるまで資料をいただく中で、ビジネス専門学校について資料を眺めていたら、先ほど苫野委員長からもあったが、「ビジネス専門学校をN高校にしちゃえ作戦」を思いつき、非常に年齢層が高めの方が多いので、「YouTube? ドワンゴ? ニコニコ動画?」とそういう感じで受け止められる可能性も大いにあるが、先ほど申し上げたが不登校だったり、学びになかなか踏み出せない人たちは、意外とスマホでニコニコ動画とかYouTubeを見ている。N高校が設立された当時も「ニコニコ動画高校」というスタンスで始まったと著書に書いてあった。そういうIT面と、不登校とか勉強が苦手という子とは親和性が高い。もしビジネス専門学校を改革していくとしたら、「起業できるよ」「ユーチューバーになろうよ」「会社作って社長になろうよ」とか、そういうことをどんどん売りにしていっていいと思うので、専門学校の方に聞きたいのは、起業することはあるかということ。起業する生徒はいるのか。</p>
川上委員	<p>今までに起業した人がいるかどうかはわからないが、勉強したら誰でも起業はできるのでは。何人の意見が相違しているかはわからないが、学校を変えたところでその人は変わらない。学校を変えて、その人が変わらないと変えられない。だから、学校を変えるだけではなく、その人をいかにどう変えられるのかをもうちょっと話してほしい。</p>
福西委員	<p>色んなアイデアを聞いて思ったのだが、川上委員のおっしゃったように自分で気づいて自分でどう変えていきたいのかというのが秘訣かと思うが、その時に、高智穂委員のお話だと、先生方もやはりまだ、これは課題の方でもあったが、交流もなくなってなかなか勉強する機会とかなく、先生方もご苦労されている。これは第2回の話になってしまうかもしれないけど、色んな分野の、たとえば大学でも普通なら高校でもやらない分野の、哲学だったり法律だったりの先生に来ていただいて、高校の先生も一緒に聞いていただいて、概要だけではなく、最新の研究の動向とか、あと社会的配慮に苦しんでいる方をサポートするような組織もあると思うので、そのような方にも来ていただいて、最新の今の情報を聞いて自分でこういうのがあるんだ、こういう勉強が自分に向いているんだというのを聞いて、高校の先生も含めて自分で気づけるようなカリキュラムがあれば面白いのかなと思った。</p>
荒瀬委員	<p>今のお話を聞いて、質問がある。熊本市立の高校は政令市になってから独自採用か。そうであれば人事異動は熊本市立の高校、ないしは専門学校も含めて行っているのか、それとも県との交流があるのか、ということをお尋ねしたい。</p> <p>もう1つは研修体制。熊本市で研修を一括して行っているのか、県の教育センターに行き受けるのか、そのあたりを教えてください。</p>
事務局 (岩瀬教育次長)	<p>お尋ねの1点目、県との人事交流の件は、政令市になったあと、県との協定で一応県との人事交流の道は残っている。ただ、ここ数年、県との人事交流は行われていないと</p>

田中委員	<p>というのが現状である。3校の中で人事交流を行うことと、新たに教員を採用するという形でやっている。研修に関しては私どもの市の教育センターで研修を行うこともあるが、県の方で行っている研修に参加させていただいているという実態である。</p> <p>私は10年ほど他県を含めて高校の講師とか実習教師とか非常勤講師をしてきたが、全部臨時採用だったのだが、その中で正規採用の研修の機会というのは設けられているので皆さん参加されるのだが、雰囲気を見ると「消化試合」。「忙しいこの時期に研修行かなきゃいけない、本当面倒くさい」、研修中に内職をされる方も多い。眠る方も多い、私語も多い。この間、放送大学の教員免許講習の最後にテストを受けに行ったのだが、その時の私語たるやすごかった。試験中なのに。免許の更新講習のテストであるにもかかわらず、モチベーションはあまり高くないのかなと思った。</p> <p>もう1つの話に移るが、私が臨時採用の実習教師として働いていた時のことだが、私は色々研修を受けたいタイプだったので、中間考査の後だとか期末考査の後だとか、行事の後とか、隙間時間を見つけては教育センターの研修に行っていた。ただ、臨時採用の実習教師が受けることのできる研修を探してみたら、県はなかった。びっくりして教頭に話をした。「なんで臨時採用の実習教師が受けられる研修がないのか」と教頭に聞いたら「わかりません」と言われた。実習教師向けの研修はあった。でも臨時採用向けの研修はない。臨時採用の講師向けの研修はあった。なので、そういう制度の落とし穴というか、隙間というか、そういうのもあるのかなど。熊本市がどうなっているのかはわからないが、1つ気になったのだが、ビジネス専門学校は非常勤の方が非常に多いが、この方々は研修を受ける機会があるのか。</p>
事務局 (総合ビジネス専門学校 平木校長)	<p>ご指摘のとおり、半分以上が非常勤講師だが、プロのビジネスマンが殆ど。実際、ホテルで仕事をなさっていたりとか。そういうこともあり、本校で行政の力を借りたり、一般の研修機会というものはない。</p>
田中委員	<p>そうすると1つ気になるのは、プロのビジネスマンの方々は、その道にはすごく秀でているかと思うが、教育に関してはそこまで、例えば、合理的配慮を必要とする生徒への配慮とか、カリキュラムの作成とか、評価の仕方とか、そういった所に関しては、そこまでとは思。特に、合理的配慮を要するような生徒は、授業中に立ち上がってしまったり、私語が多かったり、スマホをいじったりということもあると思う。そういう子たちに対して、皆さんご存じのとおり、上から怒鳴りつけたところで、改善されることはない。そういった所で上手に持っていくには、やっぱり、研修の力もあるだろうし、経験もあるのかもしれないが、研修って大きいと思うので、是非、非常勤の先生も含めて、研修の機会が少しでもあればいいなと思っている。</p>
荒瀬委員	<p>今、おっしゃったのは、確かにそのとおりのかもしれないが、一方で、恐らく学校の中で専任の先生と非常勤の先生とのチームが出来ていると思う。学校組織では、教師が一人一人個別ばらばらに活動することはあり得ない。恐らく、関わりを持って色々やっつけらっしゃると思う。その辺りは、川上委員に教えていただければと思うが、今、田中委員がおっしゃったご心配というのは、あまり無いのではないかなと思う。</p> <p>もう1つ、研修のことだが、モチベーションが高いか低いかなというのは、ある場面においては、非常に低いと見られることもあるかもしれないが、概ね、高い人たちがたくさんいる。私は教員免許状更新講習をやっているが、来られる方は非常に熱心だし、ましてや、試験の時にしゃべりだすという人は見たことがない。たまたまそういうことがあったかもしれないが、多くは違う。だから、高校生の皆さんも悲観することはない。先生達は色々な場面で一生懸命勉強している。ただ、研修において、どういう内容が、</p>

	<p>どの程度行われるか、しかも、さっきおっしゃったように時期は非常に大事なので、そういったことについては、今後、改善すべき所は改善することが必要だ。これは、学校の問題というよりも設置者の課題だ。</p> <p>専任の先生と非常勤の先生との関わり、先程ご紹介のあったプロのホテルマンのような外部の方も含めて、非常に刺激的なことだと思うが、どんな授業であるのか、その辺りを教えていただければと思う。</p>
川上委員	<p>田中委員に質問してよいか。さっきおっしゃったことの真意を聞きたいのだが。常勤の先生より、非常勤の先生の方が、言い方は悪いが、劣っているということか。</p>
田中委員	<p>ということではない。専門学校は教員免許が無くても先生ができると思うが、非常勤の先生の中には、それまで先生ではない仕事をしてきた人が先生をする場面が時々ある。そういった時に、非常勤の先生、免許を持っていない先生、免許を持っていたとしても、免許を取ったのが十何年も前だったり、勉強したのが十何年も前だったりとか、教育心理学とか児童心理学とか発達に関しての内容というのは、日々変わってきていて、十何年も前に学んだことは、今はもしかしたらちょっと変わっているかもしれない。十何年も前だと、発達障害とか合理的配慮とか、そういった所が一般的ではなかった可能性がある。非常勤の中にもたくさん色んな人がいるし、常勤の中にもたくさんいるし、正規の中にもバリエーションに富んだ人がいっぱいいるが、そういった人達の中には、突然ポンと学校現場に入っていった時に、立ち歩いたり、全然違うことをしたりしている生徒に対してどう対応していいかわからない人がいる。その時に、どうしても大きな声で指摘すると、一時は収まるかもしれない、しゃべらなくなるかもしれないが、それが繰り返されると「この先生は怒鳴る」「この先生は怒鳴らない」「この先生は怒鳴るけど耐えていれば大丈夫」とか、皆が皆、わからない、劣っているということではなくて、知識として持っていない場合があるということ。</p>
川上委員	<p>名前のおり専門学校だが、専門なので専門の方に聞くことで、1番理解できると思う。専門じゃない人が教えても、全然特化していないので、教えられていない。専門知識を持っているからこそ、専門の方が教えるのが1番理解できると思うので、そこは、非常勤の方でもいいので、特化した人をちゃんと連れて来てくれると学生も多分優位に進めると思うので。あと、立ち歩いたりされると言われるが、それは、相手が誰でも一緒で、常勤の先生でも非常勤の先生でも、その生徒が立ったり、しゃべったりするのは、どんな先生でも多分ある。でもそれは学校で対策するので、「先生が優しいから」「この先生大丈夫だから」と言って、しゃべり続けても、そこは学校で対策するので、そこは大丈夫。生徒同士でそこは収める。先生が対応している場合じゃないので。</p>
山川委員	<p>進路を選択する子どもたちを目の当たりにして、高校選択をする時に、例えば「熊本市にこんな高校ができれば行きたい／通わせたい」というアンケートがあるが、小・中学生、保護者も「進学、就職どちらも視野に入れた総合的な学科」って言っている。そう考えている時に、僕も実は、天草高校の普通科っていう所に行って、将来はまだ漠然としていた。だからそこに行って、教師になろうと思って、そこでまた上級学校を目指した。また、上級学校は行こうと考えながらも、まだそこまで考えてなかったということがあるが、だから子どもたちに、「将来を見据えないといかんぞ」と言いながらも、中々、中学校卒業段階では、正直な所、将来を見据えているかといったら、「まずは高校」「そして上級学校」って考えているのが実態。志望の動機としては、その時点で将来のことを考えていたのか、或いは今、行きながら考えているのか。自己実現に向かっているのか、どうかというのを折角なので、高校・専門学校代表の委員にも発言していただければ、次回の自分の考えのヒントに、行きたくなる学校ためのヒントになるんじゃない</p>

<p>矢野委員</p>	<p>ないかなと思う。</p> <p>自分が今行っている必由館高校に志望した1番大きな理由としては、中学2年生の時から、パソコンに関わる仕事に興味があって、テレビのドラマに「ホワイトハッカー」という職業があって、そのワードがずっと頭に残っていて、その影響かは分からないが、中学2年生の時にたまたま近所にパソコンスクールがあって、そこに聞きに行った時に、ホワイトハッカーの仕事があって、ウェブサイトを作る言語だったりを学習したり、助言をいただいて、いざ、始めてみると、やっぱりサイトの中で使う言語がほぼ英語で、その中で使う英語が自分自身理解できないという面もあったので、必由館高校の国際コースという所にする時に、国際コースってことは、英語により特化してやる所なのかなという風に思って、国際コースに志望したっていうのが志望動機。</p> <p>高校に入学して、やっとカリキュラムとか、自分がどういう風に時間を使っていいかというのが、やっと今本当の意味で分かってきたので、今、実際、放課後にウェブ制作の事務所に行って勉強をさせていただいている状況で、将来的には、ウェブプログラマー、ウェブサイトのコーディングあたりをする仕事をしたいと思っているので、それに向けて、今の事務所で勉強させていただいたりとかして、高校の方では、国際コースなので英語を特化して学ぶということで自己実現を、自分の将来が実現できればな、という風に思っている。</p>
<p>野副委員</p>	<p>自分がこの高校を志望した理由は、まず、中学校の時に、スポーツが好きなので、スポーツ関係の仕事に携わりたいと思ったので、健康スポーツコースに今いるのだが、それプラス、やっぱり挨拶とか、礼儀とかも、健康スポーツコースだからこそ、やっぱり厳しく言われる所もあって、やっぱり、挨拶は将来、大事になってくるのでこのコースを希望した。</p>
<p>川上委員</p>	<p>3つあって、1つ目が、お金が安いということ。ある、無いに関わらず安いに越したことはない。そして大学より、行く年数が短くて、2年で。あと、何で専門学校かという、高校の時に普通科の情報ビジネスコースというところで、そのまま就職しても良かったが、高校卒業が18歳なので、そのまま出るのは、まだちょっと。無知な状態で出ると、やっぱり、戦う術を知らない。戦う術を2年間で身に付けるために、そして、尚且つ、やっていける様に、専門学校に今、こう、選んでいる。</p>
<p>高智穂委員</p>	<p>川上委員がおっしゃったみたいに、自分が変わらないとダメってさっき言われていたが、中学生から方向性の選択をする「高校に行く」って選択する時に、中々それを決めてしまうというのはすごく難しいし、小学生が考えていた、子どもたちがそれを選択できるっていうのが海外の教育でされていたりするが、それを高校生で選択肢が増えていったらいいのかな、ということも漠然と思っている。高校を選ぶ時に「こんな学科がたくさんある」とか、「こんな色んなことがある」というので。熊本県内では、宇土高校で1年生の時からプロジェクト学習をやっていて、中高一貫で、自分の課題を決めたものに対して、先生が1人サポートに付いてくださるという話を聞いている。宇土高校の生徒が、卒業して、今度ミネルバ大学という、これは大学になってしまうが、高校でできた面白いなという提案で、ミネルバスクールズと言って、その大学では、1年間はアメリカで過ごして、そこで授業を受ける。でも学校自体はない。後の2年、3年、4年は、半年ずつ、各国を回って、世界7か国を旅しながら、勉強していく。だから、通信でカリキュラムを学びながら、その土地でしか学べないことを全ヨーロッパもあつたし、アフリカもあつたし、南米もあつたが、そういう所で半年ずつ、学ぶ場所を変えて、生活する場所を変えて、学ぶことは通信教育をして、そこでしか学べないことで単位を取るとい学校の方法もあつたので、日本国内でそれができたら面白いなと思っている。</p>

永村委員	<p>兵庫県だが、舞子高校とって、阪神淡路大震災を受けて、環境防災科という専門の学科ができた学校もあって、そこを学んで、仙台の多賀城高校という所が、「うちも学校にその学科を作ろう」ということで、学生達が先生に呼び掛けて、自分達で学科を立ち上げたという例もあるので、こういうことが、学びたいことで学科を立ち上げるまでが出来る様な、選択肢をつぶさないことがサポートできる学校になっていったらいいのかなと思っている。</p> <p>私のインターナショナルスクールの話を少しさせていただく。カリキュラムは、国際バカロレア（IB）というものを私は取った。どこが日本の高校と劇的に違ったか、日本でもやったら面白いんじゃないかと思う点は、学級がなかったこと。始めから、取らなきゃいけない教科というのが一定のものがあるが、2週間の「お試し」がある。自分で、数学1単位、理科1単位、2単位という風に選択するのだが、それぞれ、数学の先生が、4教室、4クラスあって、4人の先生の中から1人選ぶっていう感じで、自分で先生を、数学なら数学の先生を選べた。その1学期、2学期やっていく内に、「先生の教え方がよく分からない」とか「他所の数学の先生の方が、もうちょっと自分が苦手な所をみっちり教えてくれる」というのがあったら、学年の途中でも、先生と数学のクラスを変更できるフレキシブル、融通が利く所があった。実際、私も芸術1教科取らなきゃいけなくて、演劇とファッションデザインと美術と音楽があったが、美術の先生と喧嘩して、馬が合わないで、途中で音楽に転向したという経験もある。こういうフレキシビリティというか、先生、生徒、それからクラスの教えられることのレベルっていうことを、学校内で変更できる様なシステムっていうのは比較的簡単に導入できるのではないかと私は考えている。それで、より自分にフィットしたクラスを選べる生徒というものが出てくるのではないかと思う。また、数学は同じ数学だが、特に言語とか、英語とか、外国語とか、もっと細かく分かれていた。同じ教科内で飛び級が許されたりとか、何回も落第して、同じクラスでも教科でも、年齢の違う子が一緒に勉強するという状態もあった。</p>
〔閉会〕 苦野委員長	<p>時間が来てしまったので、私の方でクロージングさせていただきたいと思うが、他にも言いたいことがたくさんあるかと思うが、今日は1回目ということで、今後、意見を出し合っていけたらいいと思う。</p> <p>先程、色々例を挙げていただいたように、今、全国的にもすごく面白い高校がたくさん出ているし、若干二極化している感もあるが、そういった情報はここで共有していけたらいいと思う。</p> <p>私の方から、提案というか、「ニーズが大事だ」という話があったが、もう一方で「ニーズを鍛える」ということが大事ではないかと思う。いくつか話があったように、選択肢もそう。私は熊本に来てから5年になるが、熊本でずっと思っているのは、「選択肢を知らない」ということ。多くの若者たちが。こういうルート、こういうルート、3つとか、4つとかしかない。そこでしか選んでいない様な子ども達がたくさんいると思われる。それこそ、就職できたら安泰という時代は終わったと永村委員がおっしゃったが、本当にそのとおりで、地方こそもっと攻めていく必要があるし、その可能性はいっぱい持っている。それこそ起業をやって、私も本とかにもいっぱい書いたけれども、休耕地を使ったビジネスを女子中学生が起こしたとか、地方だからこそできる、しかも若者だからこそやり易い規模感とかがあって、要は、今ある仕事に就くというよりは、仕事を創るとか、新しいソリューションを出していくとか、そういったことを、若者達は本当はできるはずで、ということは今無いニーズである。ちょっとここを見て悲しいなと思ったが、企業のニーズも本当に守りに入っているので、「社会人としての基本的なマナー」とか「社会性・協調性」とか、ちょっと守りすぎなので、ここでもっと、「ケア」とか出て来ないのか、或いは、もっとこう「クリエイティビティ」とか出て来ないのか。今のニーズにはない、けど我々が掘り起こして、もっと鍛える必要があるんじゃないか。</p>

そういう面でも、もしかしたら、この会は攻めていけるのではないか。そういった心構えも1つ提案させていただきたいと思う。

今回はここでもう終わりにせざるを得ないが、何か気づいたことがあったら、事務局、学校改革推進室にご相談いただきたい。今日の議事録は事務局で作成し、委員の皆さんに送付されるので、確認いただいて、その後、私の方で最終確認をさせていただいて確定、ということにさせていただきたいが、よろしいか。それでは、議事録については、その様に取り扱う。

それでは、これをもって第1回 市立高等学校等改革検討委員会を閉会する。

(了)